猛暑年における高温対策について

猛暑年には、以下の対策を実践して稲体の活力維持をめざし、気象変動による品質・収量への影響を軽減しましょう！

★猛暑年の判断基準は、「気象庁　季節予報」の「滋賀県の季節予報（３カ月)」を確認

品種選定　高温に強い品種選定

「みずかがみ」は「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」と比べて高温登熟性が優れ、白未熟粒の発生が少なく、外観品質が優れます。

また、新品種「きらみずき」は食味、収量性、玄米外観品質のほか、耐倒伏性や高温登熟性にも優れ、作付が増加しております。

●高温登熟性目安

階級	早生品種	中生品種
強い	みずかがみ	
やや強い		きらみずき
中	コシヒカリ	秋の詩 日本晴
やや弱い	キヌヒカリ	

土づくり　地力向上で安定生産の基礎作り

品質向上には、土づくりによる養分の補給が欠かせません。特にけい酸やりん酸には、根の活性化や茎葉が硬くなる効果があり、倒伏軽減だけでなく病害虫に対する抵抗性も高まり、気象変動に負けない安定生産が期待できますので積極的に土づくり肥料を施用しましょう。

★土づくり資材として「とれ太郎」（80kg /10ａ）をおすすめしております。

移植時期　適期移植による適正な籾数の確保

１株あたりの植付本数は3 ～ 4 本の細植えで、栽植密度は、湖辺部で50 ～ 60株/坪、平坦部で60 ～ 70株/坪を目安に移植し、茎数を抑え無効分げつの発生を抑制できます。適正な栽植密度で、太い分げつの茎や稔実の良い穂を確保し、生育後期の栄養状態を維持しましょう。

水管理　適切な水管理による品質向上

登熟後半まで稲体の活力を維持し健全化を図るため､生育時期に合わせた水管理を行います。

【ポイント】

・活着後には浅水管理とし、分げつ促進と還元障害回避をはかります。

・適期の中干しで無効分げつを抑えます。過度な中干しは根を傷めるため行いません。
(環境保全型農業直接支払交付金の「長期中干し」を実施される方は１本/10a以上の溝切りと14日以上の中干しが必要)

・出穂前後各3週間は常時湛水（水交換）で胴割粒や白未熟粒の抑制と籾の充実をはかります。

・収穫作業に支障が出ない範囲で、収穫直前まで入水しましょう。

施肥管理　気象状況に応じて追肥を施用

猛暑年には、以下の施肥体系による登熟期後半の栄養不足を回避しましょう。

●通常分施栽培　（10a 当り）

品種	肥料名	穂肥1回目	穂肥2回目
コシヒカリ	化成肥料201	10kg	10kg
キヌヒカリ		20kg	—
秋の詩		10kg	10kg
日本晴		20kg	—

猛暑年には

●通常分施栽培　（10a 当り）

品種	肥料名	穂肥1回目	穂肥2回目
コシヒカリ	化成肥料201	5kg	15kg
キヌヒカリ		20kg	※5kg
秋の詩		5kg	15kg
日本晴		20kg	※5kg

※穂ばらみ期（キヌヒカリ７月中旬、日本晴７月下旬）の葉色が４以下の場合すぐに散布。

●環境こだわり分施栽培　（10a 当り）

品種	肥料名	穂肥1回目	穂肥2回目
みずかがみ	ハーフゆうき	30kg	—
コシヒカリ		20kg	20kg
キヌヒカリ		40kg	—
秋の詩		20kg	20kg
日本晴		40kg	—

猛暑年には

●環境こだわり分施栽培　（10a 当り）

品種	肥料名	穂肥1回目	穂肥2回目
みずかがみ	ハーフゆうき	30kg	※10kg
コシヒカリ		10kg	30kg
キヌヒカリ		40kg	※10kg
秋の詩		10kg	30kg
日本晴		40kg	※10kg

※幼穂形成期～穂ばらみ期(みずかがみ７月中旬､キヌヒカリ７月中旬､日本晴７月下旬)の葉色が４以下の場合すぐに散布。

★基肥・追肥の施用量ハーフゆうき 30kg/10a 以上の場合は、化学肥料成分が 4kg/10a 以内であるかご確認ください。

気象により基肥一発施肥は肥料切れする場合があるので、葉色や茎数に応じて追肥が必要です。

●通常緩効性肥料（基肥穂肥一発）栽培

品　種	施肥判断時期	確認内容	施肥時期･施肥量
コシヒカリ キヌヒカリ	7月中旬頃 （出穂11日前まで）	茎数　25本/株以上 または 葉色4以下の場合	施肥判断時期内に 化成肥料201を10kg/10a （2kgN/10a目安）
秋の詩 日本晴	7月下旬頃 （出穂11日前まで）		

●環境こだわり緩効性肥料（基肥穂肥一発）栽培

品　種	施肥判断時期	確認内容	施肥時期･施肥量
コシヒカリ キヌヒカリ	7月上旬頃 （出穂18日前まで）	茎数　25本/株以上 または 葉色4以下の場合	施肥判断時期内に ハイグレード有機11号を 18kg/10a （2kgN/10a目安）
秋の詩 日本晴	7月中旬頃 （出穂18日前まで）		

適期収穫　高温時の早まる収穫時期の判断

高温により登熟日数が短縮する傾向にありますので、早めにコンバインや乾燥機を準備し、適期収穫により胴割粒や白未熟粒、茶米の発生を防ぎましょう。

●刈取適期の目安

品　種	出穂後日数	出穂後積算気温
みずかがみ、キヌヒカリ	30~35日	950℃前後
コシヒカリ	31~38日	950℃前後
日本晴	35~40日	1000℃前後
秋の詩	35~40日	1000℃前後

注）水稲奨励品種決定調査試験（滋賀農技セ 2014 ~ 2023 年）10 年間の平均値を目安。